

題材名		パソコンでのデザイン（しおりの制作） < 総時数 9 >										
題材の目標	表現		1. 前回の授業で鑑賞したことを基本に、しおりを製作することで、人に伝達するデザインについて深く考え、使う人の気持ちになって、持っている飽きの来ないデザインを考えることが出来る。 2. 生活の役に立つ美術について自分なりの考えが持てるようになる。また、自分の思いを大切に、主題をはっきりとさせ、独創的で人にやさしいアイデアを考えていけるようにする。									
	鑑賞		4. 美術と生活の関わりについて考えながら、今後の生活において、身の周りのものを美術的な視点で捉えられるようになる。									
学習課程	時	ねらい	主な学習活動・内容	指導上の留意点	関	発	技	鑑	評価の場面	具体的評価規準(評価方法)	評価基準 (A 評定・B 評定)	
導入 スケッチ 発想 構想	1 2	・読書と自分の関わりを想像しながら、自分の思いを主題としたしおりのアイデアを考えさせる。	・テーマを決めて、自分のアイデアをアイデアスケッチで表す。	・画面の中で主題をどうはっきりさせるのかについて、よく考えさせたい。人が使うものであることを意識させる。 ・パソコンでできることを伝える。 文字の変形 画像や写真の貼り付け 拡大、縮小 など 読んだ本の内容からアイデアを考えるようにさせる。					テーマを決め、レイアウトを考えスケッチしている様子。	関：集中して取り組み、いくつかのアイデアを考えている。 (観察)	A	集中して取り組み、アイデアをいくつか考えて選んでいる。 アイデアを1つ考えている。
										発：テーマをもとに、自立的に自分のイメージをレイアウトにまとめ、文字の工夫や構成の工夫をしている。 (スケッチ・ワークシート)	A	
実技 再構成	3 4 5 6 7 8	パソコンの使い方に慣れ、アイデアスケッチをもとに、画面を再構成しながら、より自分のイメージに近づけさせる。	・パソコンを利用して、再構成しながら、作品を制作する。 プリントアウト後、ラミネートしてリボンを付け完成させる。	・ソフトの機能や説明を行った上で、実施する。特に画像の入れ方や文字の変形のさせかたについては詳しく行う。 ・分からないことは友達に聞きながら進めてもよいものとする。 ・色は、画面の色と印刷された色では少し異なることを告げておく。 ・リボンは数種類用意し作品に合う物を選択させる。 操作ができる生徒にもサポートについてもらいながら進める。					パソコンを使って作業している様子。	発：アイデアスケッチをもとに、実際にパソコンの画面を見ながら、よりよい表現に再構成しようとしている。 (観察)	A	色づかいや形にこだわって再構成をしようとしている。 色が形のどちらかには工夫が見られる。
										技：それまでの自分のパソコンを扱う技術より向上させようとしている。 (観察・ワークシート)	A	
発表 深化 評価	9	展示された友達の作品から、何を伝えたいかを感じ取らせる。その比較から自己評価をさせる。	・友達の作品を鑑賞し、ワークシートに感想を書く。また、自己評価を行う。	・友達の作品の良い点に気づかせる。中傷したりしないよう気を配る。					友達の作品を鑑賞して、ワークシートを書いている様子。	友達の作品の良い点を見つけ、互いに賞賛し合っている。人に伝えるとはどういうことか、自分なりの答えを導き出している。 (観察・ワークシート)	A	友達の作品と比較しながら自分の作品を分析することができ、印象のよい作品とはどういうことか考えることができています。 友だちの作品の良いところを探して、いくつかワークシートに書いている。
											B	